

姶良市農地利用最適化推進委員候補者の応募状況（最終公表）

【団体推薦（法人又は団体）】

No.	被推薦者（推薦を受ける者）							推薦者						
	氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	推薦地域	農業委員への推薦	組織の名称	代表者又は管理人の役職・氏名	構成員	組織の目的	構成員の資格・要件	推薦の理由
1	新村秋弘	男	69	農業	昭和50年4月：国鉄小倉工場 入社 昭和62年3月：国鉄 退社 昭和62年4月：K.S.K株式会社 入社 令和元年3月：K.S.K株式会社 退社 令和4年4月1日～：思川土地改良区 理事	耕作面積：1ha 作物：水稻 農業従事日数：180日 農業所得額：100万円	姶良	無	思川土地改良区	理事長 宮原千年	184人	農業生産の基盤の整備及び保全を図り、農業の生産性の向上、農業生産の増大、消費者の需要に即した農業生産の推進、農業構造の改善及び農業生産活動の継続的な実施に資することを目的	思川土地改良区管轄内に農地を所有する者、または耕作者から構成されている。	長年にわたって農業に従事されており、区域内の事情に非常に精通されている。また、当土地改良区理事としても精力的に活動されており、耕作者・地域に貢献され適任と思われます、推薦いたします。
2	松永政裕	男	77	農業	令和3年より漆地区協定者 (現)漆校区コミュニティ協議会会長	耕作面積：24a 作物：水稻 農業従事日数：250日	蒲生	無	漆地区集落協定	湯元 秀誠	52人	当地域は、特定農山村法に指定されるなど、平場地域と比べて生産条件の格差が大きいことから、これを補正する取組が必要である。農業生産活動を継続し、多面的機能の促進を図る。	中山間地域の集落に於いて、農用地を維持・管理していくため、農地の範囲、面積、耕作者の参加で、取組み事項を定め、それを協定し、締結する。	漆地区の農業従事者は高齢化が進み、生産活動等の継続、農用地の保全が今後厳しいと考える。担い手の人材確保、担い手への農地の集積を図ることが急務であり、農地の円滑な運用を進めるには農地利用最適化推進委員の確保が不可欠であることから漆地区集落協定にて推薦する。
3	小門口 隆	男	65	公務員	昭和54年3月：鹿児島県立蒲生高等学校 吉田分校卒業 昭和56年4月：鹿児島県 入庁 令和2年3月：同上退職 令和2年4月：同上再任用職員 令和8年3月：同上任期満了（予定） 現在：蒲生土地改良区理事	耕作面積：170a 作物：水稻 農業従事日数：180日 農業所得額：20万円	蒲生	無	蒲生土地改良区	理事長 蔵町芳郎	146人	農業生産の基盤の整備及び開発を図り、もって農業の生産性の向上、農業総生産の増大、農業生産の選択的拡大及び農業構造の改善に資することを目的とする。	土地改良区地区内にある農地の第3条資格者をもって構成する。	30年余り兼業にて水稻耕作を行い、高齢化の進む地域において中心的な存在として活躍されています。また、現在、蒲生土地改良区理事、水利係として地域に貢献され、人望も厚く、地域内の農地を熟知されていることから、農地利用最適化推進委員として適任者と思われる。
4	東 裕治	男	66	農業	平成3年～令和6年6月 ザ王病院事務 令和2年～：野中高附集落協定	耕作面積：田70a畑3a 作物：水稻 農業従事日数：150日 農業所得：90万円	加治木	無	野中高附集落協定	代表 内村孝宏	5人	西別府地区にある農業用・水路農道等の地区資源の保全を図る。	地区内での耕作である。	活動にも積極的に参加し地域に貢献されている。
5	中村博明	男	74	農業	加根又会社を45年に亘り勤続し無事定年を迎え退職後、現在再雇用として勤務しており、自治会の自治会長として率先して活動に積極的に取り組まれ、地域の人望も厚く、又その手腕の甲斐あって上名土地改良区の理事として業務に精励されている。	耕作面積：2ha弱 作物：水稻 従事日数：210日 農業所得：200万円	姶良	無	姶良市上名土地改良区	理事長 下鶴茂信	123人	農業生産の基盤の整備及び保全を図り、農業の生産性の向上、農業生産の増大、消費者の需要に即した農業生産の推進、農業構造の改善及び農業生産活動の継続的な実施に資することを目的とする。	土地改良区法第3条に規定する者であり、よって第11条の適格者で土地改良事業に参加する資格を有する所有権者である。	農業者として毎年営農計画の中で、積極的に運営し、耕作面積も増大し、土地改良区の理事として率先して事業運営に参加され、先進的な技術をもって改良区には重要な人でもあり、又、我が身を粉にして地域においても存在感の厚い人物で土地改良区として推薦するものであります。
6	隈原康男	男	70	農業	昭和51年～令和5年：JA在籍 平成30年～令和5年：西別府生産森林組合（理事3年・組合長3年） 令和3年～令和7年：ふるさと俱楽部	耕作面積：田2,303m ² 畑2,870m ² 作物：水稻+野菜 農業従事日数：約250日 農業所得額：約65万円	加治木	無	西別府ふるさと俱楽部	代表 牧野田 隆平	65人	多面的機能支払交付金 水路・農地 農道の管理	地区内での耕作者である	現在、水田・畑と耕作され、地域に尽力貢献されている。
7	袖木利雄	男	70	農業	農地利用最適化推進委員 鹿児島県十三塚原土地改良区 理事 姶良市小山田生産森林組合 理事	耕作面積：畑40a 作物：生姜・胡麻・サツマイモ	加治木	無	十三塚原土地改良区	理事長 山下 勝義	770人	土地改良事業の推進に関する資質の向上を図ることを目的とする。	土地改良区区域内の土地所有者または耕作者をもって構成する。	農業に長年従事され、改正農業委員会法後に農地利用最適化推進委員として、地域の農業に多大な貢献されました。十三塚原土地改良区の理事の職にあり人望も厚く、地域内の農地にも精通していることから、最適化推進委員として強く推薦いたします。
8	本村正一	男	78	農業	平成19年8月～現在 就農 平成22年3月～現在 姶良市農業委員 平成24年4月～現在 西浦地域保全向上活動組織代表	耕作面積：田9,881m ² 畑1,681m ² 作物：水稻+野菜 農業従事日数：250日	蒲生	無	西浦地域集落協定	代表 長倉保良	40人	協定総会にて、田、用水路、川の周辺等の草刈り、雑木等高い土手を協同草払い、環境保全を図る活動を目的としている。	農業、認定農業者、耕作者、その他家族に属する協定団体個人	西浦周辺地域は高齢化のため、鳥獣害、担い手不足など課題の多い地域、農地利用の最適化、担い手確保、下地区的整備事業協力等、これまでの経験を生かせる人材である。
9	福ヶ追浩二	男	60	会社員兼農業	H27.5～現在西久大運輸倉庫（霧島市麓） R2.4～高附・野中集落協定（中山間） R2.11～認定農業者	耕作面積：64,200m ² 作物：水稻、小麦、飼料用米 農業従事日数：220日	加治木	無	姶良市認定農業者の会	会長 上野 洋一	80人	安定したゆとりある農業、豊かな農業生活を重視し、各々の専門分野を研鑽しながら会員相互の親睦の推進を図り、併せて地域農業の発展に寄与する。	姶良市の認定農業者	兼業農家であるものの、農業に関する識見を有するとともに、地域農業に精通していることから、農地利用最適化推進委員として適任である。
10	福元 誠	男	72	農業	高校卒業後、鹿児島市卸売市場勤務 寺師自治会長、校区コミュニティ協議会会長 三叉環境保全会副代表	耕作面積：田36,000m ² 作物：水稻（ヒカリ） 農業従事日数：200日	姶良	無	三叉土地改良区	理事長 比良文識	230人	農業生産の基盤の整備及び保全を図り、農業の生産性の向上、農業生産の増大、消費者の需要に即した農業生産の推進、農業構造の改善及び農業生産活動の継続的な実施に資することを目的とする。	土地改良区区域内の土地所有者または耕作者をもって構成する。	農業に長年従事されており区域内の事情に精通している又は自治会長並びに校区コミュニティ会長として精力的に活動されており地域に貢献され適任と思われます。
11	東村和人	男	65	農業	H28に航空自衛隊を定年して、会社員として勤務していました。R5年に会社を退職し農業に専念しています。出身の北山校区にて地域を活性化させたいと思っています。	H28年より7反の圃場と会社員を兼業しました。R5年より1町7反の圃場を耕作し、稻作、麦作、炭などを生産しています。R7年は4町4反に圃場を拡大しました。	姶良	無	木津志自治会	会長 小長野 誠	55人	会員相互の親睦と連絡、環境の整備、文化の向上並びに福祉の増進、防災、集会施設の維持管理等良好な地域社会の維持及び形成に資するとともに各種団体相互の発展に協力することを目的とする。	木津志の区域内に住所を有する個人	地区内の主たる農業経営者であり、地区的遊休農地等を集積しながら営農をするリーダー的人である。
12	中尾和久	男	67	農業	就農 平成28年～ 中山間協定参加 平成28年4月～ 中山間協定副代表 令和7年4月～	耕作面積：32,595m ² 作物：水稻 農業従事日数：150日	蒲生	無	新留集落協定	代表 根元成生	4人	新留地区において、農地・水路・農道の維持管理、鳥獣被害防止対策などをを行い、耕作放棄地の発生を防止し、農業生産活動を継続することにより、多面的機能の発揮の促進を図る。	新留地区の中山間直接支払制度の対象農用地で耕作する者	高齢化が進む地域で、中心的な存在として、新留集落協定の副代表として農地・水路等の維持管理に貢献している。また、人望も厚く、地域内の農地を熟知されている。このことから、農地利用最適化推進委員として適任であるため。